



# かわかみ

令和2年2月13日  
菊川市立小笠東小学校

## 児童・保護者学校評価 1, 2学期の比較

アンケート項目	かなり当てはまる、当てはまるの合計					目標値
	児童		保護者		○	
	1学期	2学期	1学期	2学期		
良いところがある	84.4%	89.6%	99.1%	99.6%	○	
学習にすすんで取り組んでいる	80.4%	82.3%	79.9%	83.0%	○	
授業の内容が、よく分かっている	84.9%	91.9%	86.2%	87.1%	○	92.0%
相手の考えを分かろうとして聞いている	86.7%	86.0%	85.3%	80.8%		
相手を見て聞いてもらえるように話している	77.8%	85.5%	83.5%	81.3%		
家で予習をしている	58.2%	61.6%	39.7%	37.5%		
家で復習をしている	64.7%	80.1%	61.2%	55.8%		
みんなと何かをすることを楽しんでいる	91.1%	93.2%	95.6%	98.2%	○	
仲間と助け合って生活している	89.7%	90.1%	93.2%	96.4%	○	
行事に向けて一生懸命に取り組んでいる	89.7%	86.5%	96.9%	96.4%		94.0%
約束や決まりを守っている	90.3%	89.1%	86.2%	83.9%		
自分からあいさつをしている	83.6%	88.3%	79.1%	78.0%		
ぬいだはきものをそろえている	86.2%	87.8%	56.1%	55.8%		
相手の名前には「さん」をつけている	77.7%	77.5%	89.6%	88.7%		
信頼できる先生がいる	91.1%	89.6%	89.2%	90.0%		91.0%
学校が楽しい	87.2%	89.2%				93.0%
ICT機器を使うと授業がわかりやすい	87.1%	92.3%				95.0%
積極的な情報発信がある			81.9%	82.2%		90.0%

青色表示：3%以上上昇 赤色表示：3%以上低下 ○印：児童、保護者とも上昇

## 成果

1学期の学校評価を受けて指導方法改善を進めた結果、児童の評価が17項目中12項目でアップした。特に「授業がよく分かる」は7%上昇した。これは保護者も感じている変化である。本年度は「話す力」をつけることに取り組んできた。日々の授業や朝の活動、日常生活での指導を繰り返してきた成果が出たと言える。授業中の対話では相手に考えが伝わるようになってきた。また、普段の宿題を授業の予習復習と捉えて取り組むことで、「授業がよく分かる」につながったと考えられる。ICTを授業の中で効果的に活用できているのも大きな要因である。引き続き工夫を重ねていく。

「良いところがある」の項目は99.6%と保護者が極めて高い数字を示している。保護者の子どもを認める思いが2学期の子どもの上昇につながったと考えられる。また、学校でも日々児童に肯定的な声かけを意識している。ほめほめ週間の取組もその一つである。また、学校で学習に対する評価が全体的に上昇した。これが「良いところがある」の上昇につながったといえる。学校生活の大半は授業である。今後とも授業改善に力を入れていく。

「みんなと何かをすることを楽しんでいる」等児童、保護者とも高いのが本校の強み。行事で子どもたちを育てること、学級での生活を充実させることで、子どもたちは困難を乗り越えてさらに成長するはず。

## 課題

「相手の考えを分かろうとして聞いている」子どもも下がり保護者も5ポイント減少した。相手を認める、大切にやる意識がまだ成長していない。今後、相手の話を聴く力を育てる。それを通して認め合う学級づくり、安心できる居場所づくりを進める。

「約束や決まりを守っている」の項目は数字としてはまだ高いが児童、保護者ともに下がっているのも気になる。学校を社会性を身につける場と捉え、みんなが気持ちよく安心して生活できるための約束や決まりの意義を伝え続けていく。